



# Pictet Global Market Watch

## 欧州株式に絶好の投資機会が到来

欧州大陸では、独・仏が親密な関係を復活させ「蜜月入り」したかの感があります。また、域内経済の拡大基調が政治改革を促しつつあります。とはいえ、足元の良好な環境が永続するわけではありません。政治家、投資家共に、「今」しか手中に出来ない絶好の機会を逃さず、最大限に活かすべきだと考えます。

### 独・仏の結束と良好な欧州経済

欧州は、いつまで続くかは分からないにしても、独・仏両国の「蜜月関係」を歓迎しているように思われます。政治家にとってはより安定した将来の基礎を築く絶好の機会が、投資家にとっては欧州株投資から良好な収益を獲得する好機が呈されているからです。

ユーロ圏は、予測の極めて困難な主要各国の選挙を、極右勢力を拡大させることなく乗り切りました。中でも、フランスのマクロン新大統領が、重要な改革の実行に必要な不可欠な強い信任を勝ち取った点は特に注目されます。ドイツのメルケル首相との結束を強めたマクロン大統領には、ユーロ圏の中で主導権を握る道が開かれています。

一方、スペインの銀行業界では、破綻の危機に瀕したバンコ・ポピュラーのサンタンデル銀行による救済買収が円滑に行われたことで、強い政治的な意志がありさえすれば銀行改革を成し得ることが証明されました。今回の救済劇は、イタリア等、スペイン以外の欧州連合(EU)構成国の不良債権問題を解決するための現実的な青写真を描いています。

金融政策についてもビジネス・サイクルについても米国に追随してきた欧州経済は、足元、比較的穏やかな局面を展開しています。経済の拡大が持続することで政治改革を可能としつつある心地よい環境は、少なくとも半年から一年程度は持ち堪えると思われれます。

以上のことから、欧州株式、とりわけ、銀行セクターの先行きは良好と見えています。

### 英国株式への投資を再開

英国株式について、ピクテでは過去2年の殆どの時期を通じて投資を控えてきましたが、予想外の結果に終わった解散総選挙終了後、慎重な姿勢を維持しつつ、投資を再開しています。国内の政局は、目先は不透明感を残すものの、長期的な観点からすると、国内経済にも金融市場の一部にも、好材料を提供する可能性があります。

一方、英国経済については、緊縮財政(を巡る議論)が影をひそめており、財政刺激策が、幾分とも、期待できそうに思われます。これは、北アイルランドの民主統一党が保守党政権への閣外協力の見返りに要求したものです。同時に、有権者の投票行動にも示唆されていたと考えられます。数年間にわたり生活水準の低下にさらされてきた英国国民は、財政刺激策を求めたのです。(ちなみに、5月末時点では、英国の消費者物価指数は年初来で1.4%上昇していますが、この間、賞与を含む賃金の上昇率は0.8%に留まっており、生活水準は低下しています。)

英国経済は、有利な為替レートと低金利の恩恵にも与るだろうと考えられます。ポンド安と財政刺激の組み合わせは、通常、英国株式市場の追い風となります。足元の英国株式は、大陸欧州や米国の株式と比較して割安感が強いことから、投資資金の流入や積極的なM&A(合併・買収)活動を促す一因になるでしょう。

英国の不安定な政局は、今のところ、株式市場の押し下げ要因となることなく、むしろ、押し上げ要因になっているように見受けられます。

英国のEU離脱(ブレグジット)については、先の選挙結果が大筋の流れを覆すことはないと思われていますが、英国側の交渉は、強硬な姿勢を軟化させる公算が高いと見えています。

<次ページに続く>

一方、EUの政治家は、可能な限り早い時期に英国との交渉を進めたいと願っていることでしょう。ドイツのメルケル首相にしてもフランスのマクロン大統領にしても、今後2年にもわたってブレグジットがEU首脳会議の主要議題であり続けることを望んでいるとは思えません。この2年は、EUを前進させるための貴重な時間となり得るからです。マクロン大統領がEUの統合深化を真剣に考えているとしたら、行動の時は「今」だと考えます。

## 今こそ欧州株式投資の絶好の機会

良好な欧州経済が永続するわけではないことに留意が必要です。ブレグジットの長期的な影響がどのようなものとなるかは定かではありませんし、ユーロ圏、とりわけイタリアは、依然として未解決の構造問題を数多く抱えています。

また、次の景気後退局面では、意志と組織力を強化した大衆迎合主義者(ポピュリスト)が再度勢い付かないとも限りません。

そのような状況が起こり得るということは、絶好の機会が呈されているうちにそれを最大限に活かすことが欧州の政治家にとっていかに重要であるかを意味しています。「今」ならば手中にできるチャンスを掴み、活かし切ることは、投資家にとっても極めて重要です。

※将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。